



1. IFMIF 原型加速器入射器の搬入

5月29-30日に船便で欧州から輸送されたIFMIF/EVEDA 原型加速器の入射器の部品が国際核融合エネルギー研究センターのIFMIF/EVEDA 開発試験棟に搬入された(図1参照)。今後同じく欧州が調達している電源盤等の周辺機器が輸送された後、据付調整作業が本格的に開始される予定。



図1 IFMIF/EVEDA 開発試験棟に搬入された入射器(7月六ヶ所村の国際核融合エネルギー研究センターにて)。

2. 核融合エネルギーに関する講演会の開催

6月4日、青森市内で青森県 ITER 計画推進会議と青森県により ITER 計画・BA 活動の最新状況および様々な核融合研究開発の方式などについて広く青森県の方々へ理解促進を図る「核融合エネルギーに関する講演会」が開催された。講演会では、来賓として原子力機構から横溝理事が挨拶し、その後、森核融合研究開発部門長がトカマク型核融合原型炉の実現に向けた研究開発の進展について発表した。またITER計画・BA活動に係るパネル展示およびプラズマ発生の実演等を行い、参加した約100名の方々に核融合の研究開発への理解を深めていただいた(図2参照)。

3. 札幌市立星置中学校の訪問

6月3日、札幌市立星置中学校の修学旅行生161名が国際核融合エネルギー研究センターを訪問した。ITER 遠隔実験研究室で行われた奥村特別研究員による核融合の説明に、中学生たちは長旅の疲れも見せず熱心に耳を傾け、積極的に質問をしていた。その後のスーパーコンピュータ(六ちゃん)の現場見学では、初めて見るスーパーコン



図2 核融合エネルギーに関する講演会(左:横溝理事の挨拶, 右:森研究開発部門長の講演, いずれも6月4日青森市にて)。



図3 札幌市立星置中学校の訪問(左:奥村特別研究員の講演, 右:スーパーコンピュータ“六ちゃん”の見学, いずれも6月3日国際核融合エネルギー研究センターにて)。



図4 核融合原型炉の設計、研究開発に関する会合（左：核融合原型炉に向けた研究開発設計合同チーム第3回会合（7月22-26日）、右：核融合炉材料技術打ち合せ（7月24・25日）、いずれも国際核融合エネルギー研究センターにて）。

ピュータの姿に歓声を上げ、目を輝かせながら記念の写真を撮っていた。さらに、その計算速度（四則演算を1秒間に約1200兆回以上）の説明を受けると、改めて驚きの声をあげていた（図3参照）。

4. 核融合原型炉の設計、研究開発に関する技術会合

7月に入り、原型炉設計、研究開発に関する技術会合が精力的に行われている。7月22-26日には、文部科学省作業部会の指示の下発足した核融合炉に向けた研究開発計画設計合同チーム第3回会合、7月24・25日には、原型炉のブランケットの構造材料に関するBAタスク技術打ち合わせが開催され、原子力機構、大学、関係機関の方々が涼しい六ヶ所を訪れ熱い議論を展開した（図4参照）。

5. 恒例のバーベキュー大会

7月6日にむつ市の早掛沼公園で、初夏恒例となったバーベキュー大会が開かれ、青森研究開発センター管理部、核融合研究部門、IFERC及びIFMIF/EVEDA事業



図5 初夏恒例のバーベキューパーティー（7月6日、むつ市早掛沼公園にて）。

チームのメンバーを含め、三十数名が参加し、青森（津軽海峡）のホタテ、スベアリブ、地元の野菜等、地場産の食材に舌鼓を打った（図5参照）。

（日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門）